

三重くにつくりー万人アンケート調査

分析報告書



平成 15 年

三 重 県



1 . 各分野の取組の満足度及び重要度の得点化による平均得点算出	1
2 . 平成 15 年度における県行政の取組に対する満足度・重要度の平均得点	2
3 . 平成 10 年度～平成 15 年度における満足度・重要度の上位・下位 5 項目	3
3 . 1 重要度	3
3 . 2 満足度	5
4 . 施策の満足度と重要度の関係	7
4 . 1 平成 15 年度における満足度と重要度の関係	7
4 . 2 満足度と重要度の関係の推移	10
5 . 平成 15 年度における県行政の取組に対する認知度	28
6 . 施策認知者の満足度	29

参考資料

認知度と満足度のクロス集

1. 各分野の取組の満足度及び重要度の得点化による平均得点算出

各分野の取組の満足度及び重要度の各選択肢に得点をつけ、平均得点を算出した。得点配分は下表の通りとなっている。

得点配分

満足度	重要度	ポイント
満 足	重 要	+ 2
どちらかといえば満足	どちらかといえば重要	+ 1
どちらともいえない	どちらともいえない	± 0
どちらかといえば不満	どちらかといえば重要でない	- 1
不 満	重要でない	- 2
わからない、無回答		± 0

$$\text{平均得点} = \frac{\text{「満足」} \times 2 + \text{「どちらかといえば満足」} + \text{「どちらかといえば不満」} \times (-1) + \text{「不満」} \times (-2)}{\text{有効回答者数}}$$

上式で算出した満足度、重要度の平均得点を用いて、平成 10 年度～15 年度（平成 10、12、14、15 年度）の 4 回の推移や、満足度、重要度の関係などを分析する。

また参考として、平成 15 年度の満足度、重要度については、「わからない」「無回答」を除いた平均得点も別途算出した。

得点配分

満足度	重要度	ポイント
満 足	重 要	+ 2
どちらかといえば満足	どちらかといえば重要	+ 1
どちらともいえない	どちらともいえない	± 0
どちらかといえば不満	どちらかといえば重要でない	- 1
不 満	重要でない	- 2

$$\text{平均得点} = \frac{\text{「満足」} \times 2 + \text{「どちらかといえば満足」} + \text{「どちらかといえば不満」} \times (-1) + \text{「不満」} \times (-2)}{\text{「わからない」「無回答」を除いた有効回答者数}}$$

2. 平成 15 年度における県行政の取組に対する満足度・重要度の平均得点

平成 15 年度における県行政の取組に対する満足度、重要度の平均得点の結果は、以下のようになった。

平成 15 年度の満足度、重要度の平均得点

項目	総数		「わからない」「無回答」除	
	重要ポイント	満足ポイント	重要ポイント	満足ポイント
01.人権侵害・差別撤廃	0.83	-0.08	0.89	-0.10
02.生涯学習の機会提供	0.81	-0.07	0.88	-0.08
03.学校教育への取組	1.47	-0.34	1.55	-0.40
04.青少年の健全育成	1.40	-0.41	1.47	-0.49
05.高等教育機関の充実	0.77	-0.22	0.83	-0.28
06.市民活動環境の整備	0.58	-0.27	0.63	-0.37
07.芸術文化環境の提供	0.54	-0.17	0.58	-0.22
08.文化遺産等の保存	1.00	0.10	1.06	0.13
09.スポーツ施設の整備	0.76	-0.13	0.79	-0.15
10.防災対策への取組	1.63	-0.27	1.69	-0.31
11.自然災害対策	1.57	-0.23	1.62	-0.29
12.交通安全対策の推進	1.46	-0.23	1.50	-0.26
13.防犯活動の強化	1.54	-0.47	1.59	-0.54
14.食品の安全性確保	1.35	-0.22	1.41	-0.27
15.高齢者等の就労対策	1.07	-0.39	1.14	-0.49
16.保健予防体制の確保	1.23	-0.15	1.30	-0.19
17.子育て環境の整備	1.09	-0.21	1.19	-0.26
18.患者本位の医療体制	1.49	-0.48	1.57	-0.57
19.保健・福祉サービス	1.30	-0.18	1.37	-0.23
20.自然環境の保全	1.17	-0.23	1.25	-0.28
21.野生生物の保護	0.74	-0.14	0.81	-0.21
22.自然に親しむ場の整備	0.80	-0.13	0.86	-0.16
23.ごみの減量化	1.48	-0.27	1.54	-0.30
24.大気汚染防止対策	1.38	-0.31	1.46	-0.38
25.川や海の水質浄化	1.47	-0.43	1.54	-0.51
26.農林水産業の活発化	0.82	-0.24	0.94	-0.34
27.産業育成・企業誘致	0.72	-0.21	0.83	-0.30
28.観光施設・地域づくり	0.78	-0.29	0.83	-0.35
29.科学技術の振興	0.50	-0.11	0.60	-0.18
30.地域商工業の活発化	1.09	-0.55	1.17	-0.67
31.雇用・勤労者福祉	1.40	-0.64	1.46	-0.74
32.職業能力の開発訓練体制	0.87	-0.30	0.98	-0.43
33.国際的人材の育成	0.52	-0.14	0.59	-0.22
34.他府県との共同事業	0.34	-0.11	0.40	-0.18
35.情報ネットワークの整備	0.58	0.08	0.63	0.10
36.情報教育の推進	0.76	-0.07	0.84	-0.09
37.30分交通圏の拡大	0.36	-0.30	0.39	-0.38
38.国道等の改良・整備	0.86	-0.32	0.91	-0.36
39.公共交通機関の整備	0.88	-0.36	0.94	-0.41
40.港湾の整備	0.36	-0.08	0.43	-0.12
41.快適なまちづくり	1.09	-0.40	1.15	-0.46
42.農山漁村づくり	0.98	-0.36	1.06	-0.46
43.過疎地域等の活性化	0.49	-0.22	0.57	-0.35
44.エネルギー対策の推進	1.23	-0.35	1.33	-0.46
45.安心な水の安定確保	1.68	-0.01	1.73	-0.01
46.福祉に携わる人材の確保	1.26	-0.26	1.33	-0.33
47.国際的な環境保全への協力	0.50	-0.07	0.60	-0.11

3. 平成 10 年度～15 年度における満足度・重要度の上位・下位 5 項目

3. 1 重要度

(1) 重要度上位 5 項目

	平成 10 年度	平成 12 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
第 1 位	45.安心な水の安定確保 (1.71)	45.安心な水の安定確保 (1.64)	45.安心な水の安定確保 (1.68)	45.安心な水の安定確保 (1.68)
第 2 位	23.ごみの減量化 (1.61)	24.大気汚染防止対策 (1.63)	25.川や海の水質浄化 (1.53)	10.防災対策への取組 (1.63)
第 3 位	25.川や海の水質浄化 (1.56)	23.ごみの減量化 (1.53)	10.防災対策への取組 23.ごみの減量化 (1.52)	11.自然災害対策 (1.57)
第 4 位	24.大気汚染防止対策 (1.51)	25.川や海の水質浄化 (1.49)		13.防犯活動の強化 (1.54)
第 5 位	10.防災対策への取組 18.患者本位の医療体制 (1.50)	18.患者本位の医療体制 (1.47)	18.患者本位の医療体制 (1.50)	18.患者本位の医療体制 (1.49)

平成 15 年度の重要度の上位 5 項目は、「安心な水の安定確保」「防災対策への取組」「自然災害対策」「防犯活動の強化」「患者本位の医療体制」の順となっている。

上位 5 項目の平成 10 年度から 15 年度までの推移をみると、4 回の調査をとおして第 1 位は「安心な水の安定確保」、第 5 位は「患者本位の医療体制」となっている。「ごみの減量化」については年々下降傾向にあるのに対して、「防災対策への取組」については年々上昇傾向となっている。また、平成 15 年度は新たに「自然災害対策」が挙げられている。

(2) 重要度下位 5 項目

	平成 10 年度	平成 12 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
第 1 位	34.他府県との共同事業 40.港湾の整備 (0.37)	40.港湾の整備 (0.32)	40.港湾の整備 (0.32)	34.他府県との共同事業 (0.34)
第 2 位		34.他府県との共同事業 (0.35)	34.他府県との共同事業 (0.40)	37.30 分交通圏の拡大 40.港湾の整備 (0.36)
第 3 位	29.科学技術の振興 (0.42)	29.科学技術の振興 (0.40)	37.30 分交通圏の拡大 (0.43)	
第 4 位	37.30 分交通圏の拡大 (0.46)	02.生涯学習の機会提供 07.芸術文化環境の提供 43.過疎地域等の活性化 (0.53)	29.科学技術の振興 (0.49)	43.過疎地域等の活性化 (0.49)
第 5 位	35.情報ネットワークの 整備 (0.47)		43.過疎地域等の活性化 (0.53)	43.過疎地域等の活性化 (0.53)

平成 15 年度の重要度の下位 5 項目は、「他府県との共同事業」「30 分交通圏の拡大」「港湾の整備」「過疎地域等の活性化」「科学技術の振興」「国際的な環境保全への協力」となっている。

平成 10 年度から 15 年度までの推移をみると、第 1 位、第 2 位は常に「他府県との共同事業」「港湾の整備」が占めており、「30 分交通圏の拡大」「過疎地域等の活性化」「科学技術の振興」についても、ほとんどの年度で下位 5 項目に挙げられている。また、平成 15 年度に新たに追加した施策である「国際的な環境保全への協力」は第 5 位となっている。

3. 2 満足度

(1) 満足度上位5項目

	平成 10 年度	平成 12 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
第1位	08.文化遺産等の保存 (0.21)	08.文化遺産等の保存 (0.18)	08.文化遺産等の保存 (0.16)	08.文化遺産等の保存 (0.10)
第2位	01.人権侵害・差別撤廃 (-0.02)	01.人権侵害・差別撤廃 45.安心な水の安定確保 (-0.01)	35.情報ネットワークの 整備 (0.03)	35.情報ネットワークの 整備 (0.08)
第3位	45.安心な水の安定確保 (-0.03)		01.人権侵害・差別撤廃 (-0.01)	45.安心な水の安定確保 (-0.01)
第4位	40.港湾の整備 (-0.06)	40.港湾の整備 (-0.04)	02.生涯学習の機会提供 40.港湾の整備 (-0.06)	02.生涯学習の機会提供 36.情報教育の推進
第5位	16.保健予防体制の確保 (-0.07)	16.保健予防体制の確保 (-0.07)		47.国際的な環境保全へ の協力 (-0.07)

平成 15 年度の満足度の上位 5 項目は、「文化遺産等の保存」「情報ネットワークの整備」「安心な水の安定確保」「生涯学習の機会提供」「情報教育の推進」「国際的な環境保全への協力」の順となっている。ただし、上位 5 項目ではあるが満足度はマイナスとなっていることに留意する必要がある。

平成 10 年度から 15 年度までの推移をみると、4 回の調査をとおして第 1 位は「文化遺産等の保存」となっている。「人権侵害・差別撤廃」「港湾の整備」については、平成 14 年度までは上位 5 項目に挙げられているが、平成 15 年度には上位 5 項目から外れる結果となっている。「安心な水の安定確保」については、平成 14 年度に上位 5 項目から外れているが、平成 15 年度に再び第 3 位に上昇している。また、平成 15 年度に新たに追加した施策である「国際的な環境保全への協力」は、第 5 位に挙げられている。

(2) 満足度下位5項目

	平成 10 年度	平成 12 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
第1位	25.川や海の水質浄化 (-0.68)	25.川や海の水質浄化 (-0.62)	31.雇用・勤労者福祉 (-0.64)	31.雇用・勤労者福祉 (-0.64)
第2位	23.ごみの減量化 (-0.65)	31.雇用・勤労者福祉 (-0.54)	25.川や海の水質浄化 (-0.59)	30.地域商工業の活性化 (-0.55)
第3位	31.雇用・勤労者福祉 (-0.64)	04.青少年の健全育成 23.ごみの減量化 (-0.51)	30.地域商工業の活性化 (-0.56)	18.患者本位の医療体制 (-0.48)
第4位	24.大気汚染防止対策 (-0.61)		18.患者本位の医療体制 41.快適なまちづくり (-0.49)	13.防犯活動の強化 (-0.47)
第5位	42.農山漁村づくり 44.エネルギー対策の推進 (-0.57)	24.大気汚染防止対策 (-0.50)		25.川や海の水質浄化 (-0.43)

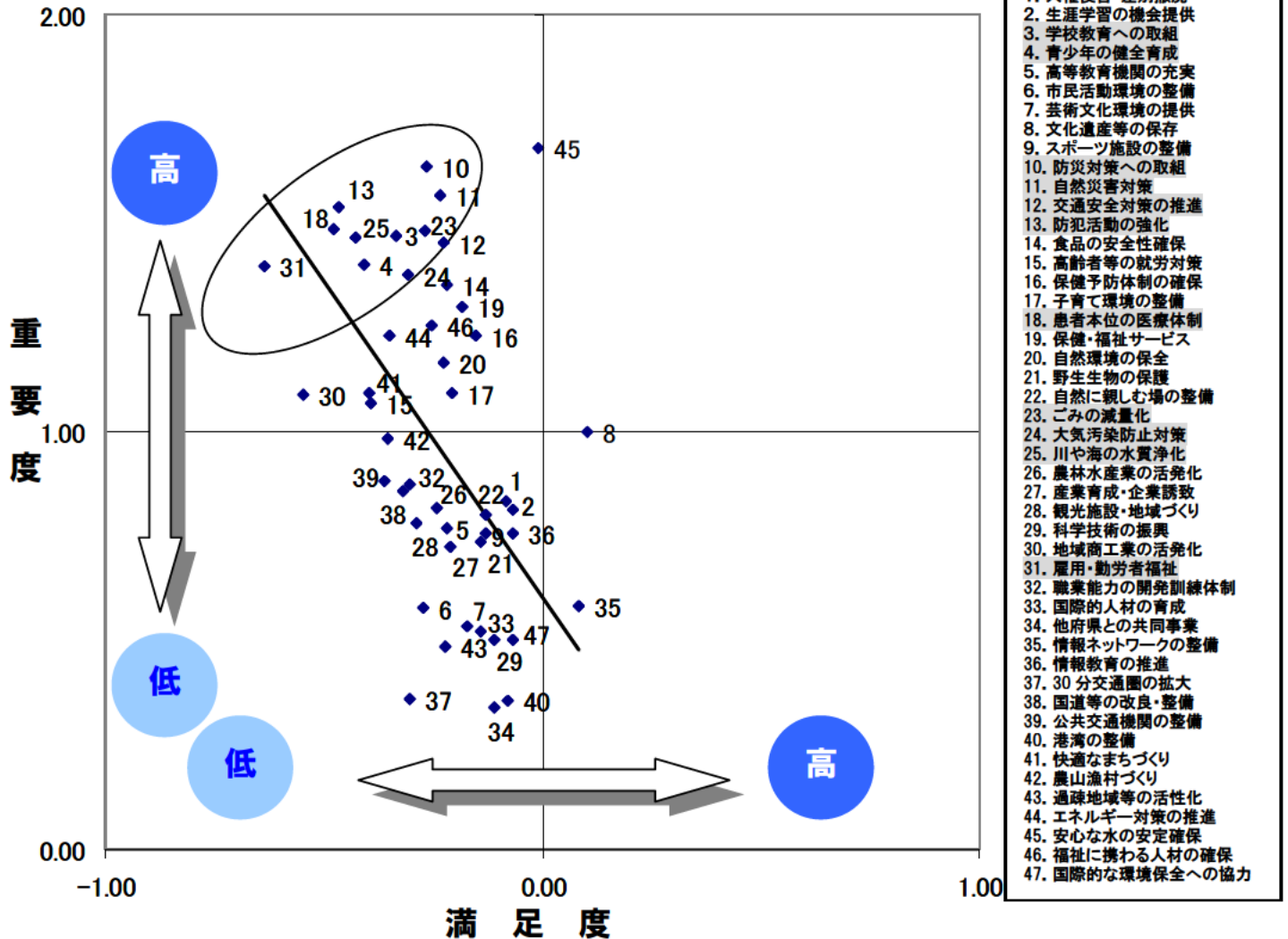
平成 15 年度の満足度の下位 5 項目（不満度の上位 5 項目）は、「雇用・勤労者福祉」「地域商工業の活性化」「患者本位の医療体制」「防犯活動の強化」「川や海の水質浄化」となっている。

平成 10 年度から 15 年度までの推移をみると、「川や海の水質浄化」については、平成 10 年度、12 年度では下位第 1 位（不満度第 1 位）であったが、平成 14 年度には 2 位、15 年度には 5 位となっている。一方、「雇用・勤労者福祉」については年々上昇傾向にあり、平成 14 年度、15 年度では下位（不満度）第 1 位に挙げられている。

4. 施策の満足度と重要度の関係

4. 1 平成 15 年度における満足度と重要度の関係

満足度と重要度の散布図



- 注1) 満足度と重要度の散布図における番号については、右記の表の番号と対応している。
 注2) 表中の塗りつぶしてある施策は、楕円形内の重点課題となっている。
 注3) 回帰線と決定係数は、「8.文化遺産等の保存」「45.安心な水の安定確保」を除いて算出している。

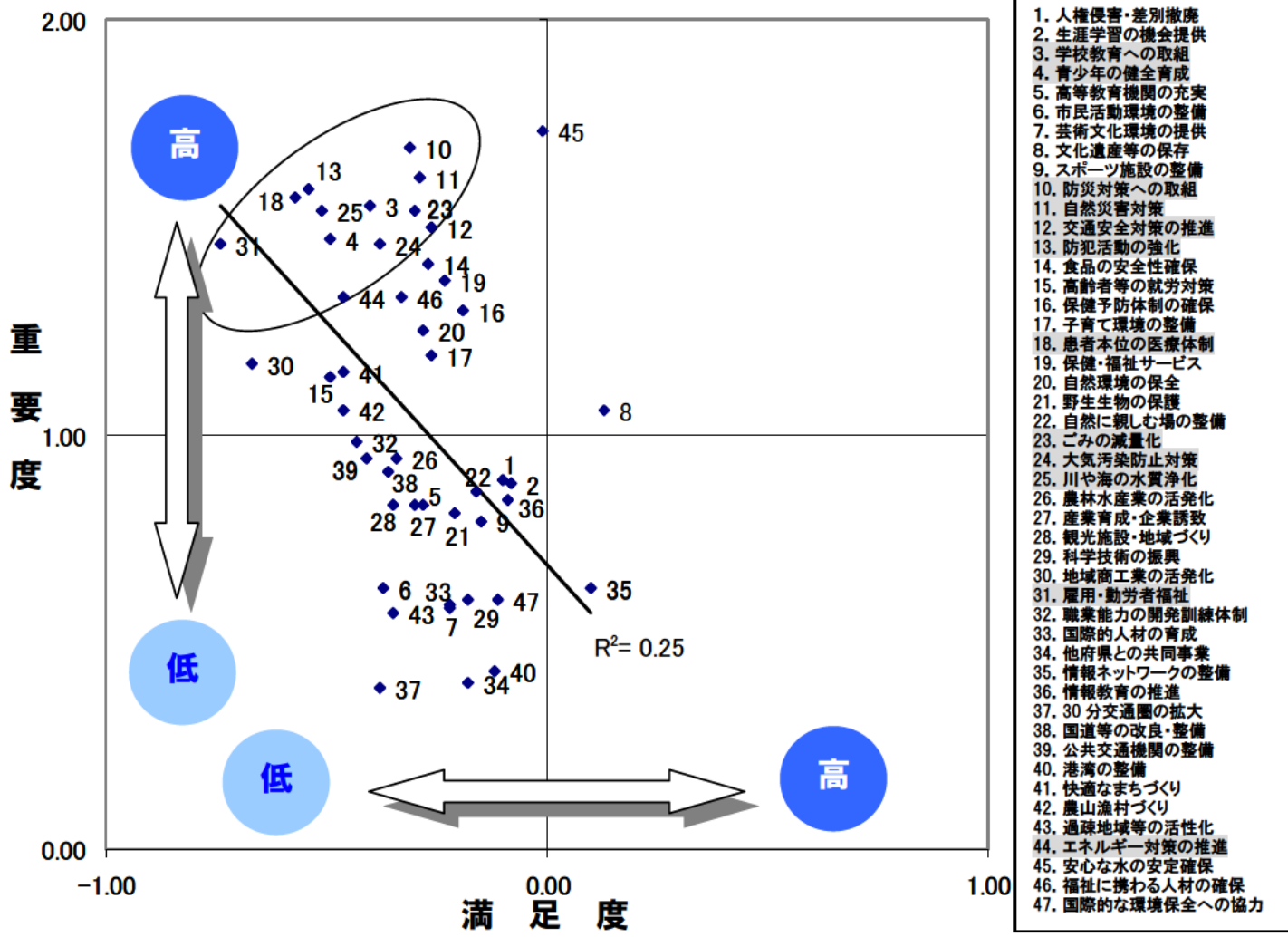
上図は横軸に満足度平均点、縦軸に重要度平均点をとって、各分野の取組をプロットしたものである。この中で特に注目すべき部分は、満足度の平均得点が低く（＝不満）、重要度の得点が高い（＝重要）項目であり、これらはグラフの左上方に位置している。これらの取組については特に推進や改善に対する住民のニーズが高いものであり、中でも重点的な課題となる施策を楕円で囲っている。住民ニーズが高い施策としては、「学校教育への取組」「青少年の健全育成」など次世代を育成するのに必要な取組や、「防災対策への取組」「自然災害対策」「交通安全対策の推進」「防犯活動の強化」など、安心して安全な生活を営むことができるような取組などが挙げられている他、「ごみの減量化」「大気汚染防止対策」「川や海の水質浄化」など環境問題への取組へのニーズも高くなっている。さらに「患者本位の医療体制」「雇用・勤労者福祉」などの取組への期待も高い。

また、満足度と重要度に相関があるのかをみるために、回帰線をひいて分析を行う。ただし、「8 . 文化遺産等の保存」と「45.安心な水の安定確保」が他の点とはかなり離れた位置にあるため、この2つを除いた45項目での回帰分析となっている。

その結果、回帰線の決定係数 (R^2) は0.31 (相関係数は約0.56) であり、両者に強い相関があるとまではいえないが、大まかな傾向をみることができる。回帰線は右下がりとなっており、満足度が高いほど重要度は低くなっていることから、施策に満足するほどニーズは低くなる傾向にあるといえる。

この中で回帰線よりかなり左下に位置する施策（「6 . 市民活動環境の整備」「37 . 30分交通圏の拡大」「43 . 過疎地域等の活性化など」）は、県の「平均的な」重要度と満足度の位置関係から見て、重要度に比べ満足度が低い方向に大きく外れている。これらの施策については重要度は低いものの、満足度がそれ以上に低い（不満度が高い）施策であり、県行政として注意が必要な施策である。

満足度と重要度の散布図：「わからない」「無回答」を除いたもの



注1) 満足度と重要度の散布図における番号については、右記の表の番号と対応している。
 注2) 表中の塗りつぶしてある施策は、楕円形内の重点課題となっている。
 注3) 回帰線と決定係数は、「8.文化遺産等の保存」「45.安心な水の安定確保」を除いて算出している。

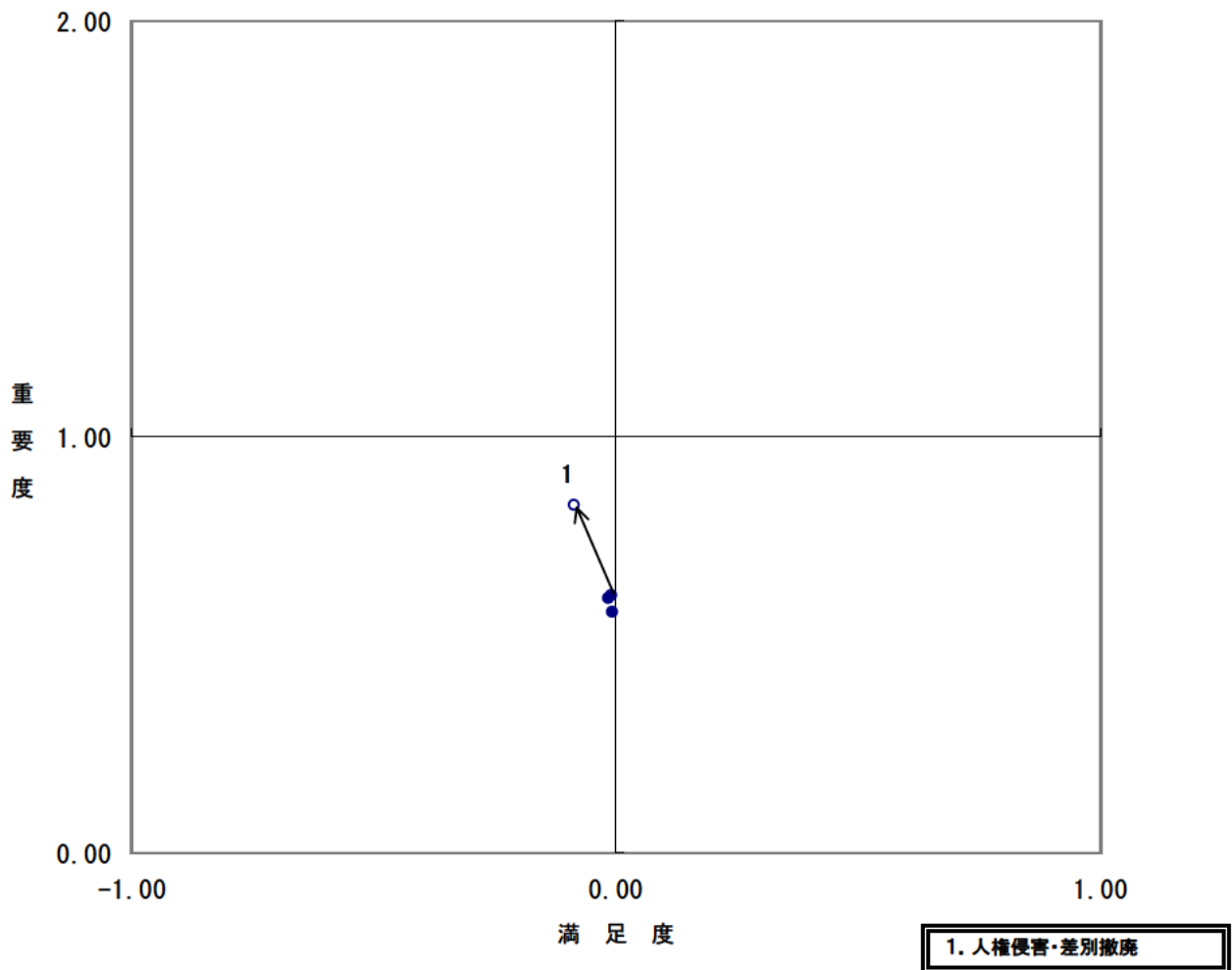
平成15年度については、前述のとおり「わからない」「無回答」をポイントに含めない場合での満足度、重要度の関係を図にプロットした。総数の場合とほとんど相違はないが、新たに「エネルギー対策の推進」が入ってくる。

また、回帰線の決定係数は0.25（「8.文化遺産等の保存」「45.安心な水の安定確保」を除いて算出）と、「わからない」「無回答」を含めた場合より若干低くなっているが、回帰線は右下がり線となっており、満足度が高い施策ほど重要度は低くなる傾向にあることは変わらない。

4. 2 満足度と重要度の関係の推移

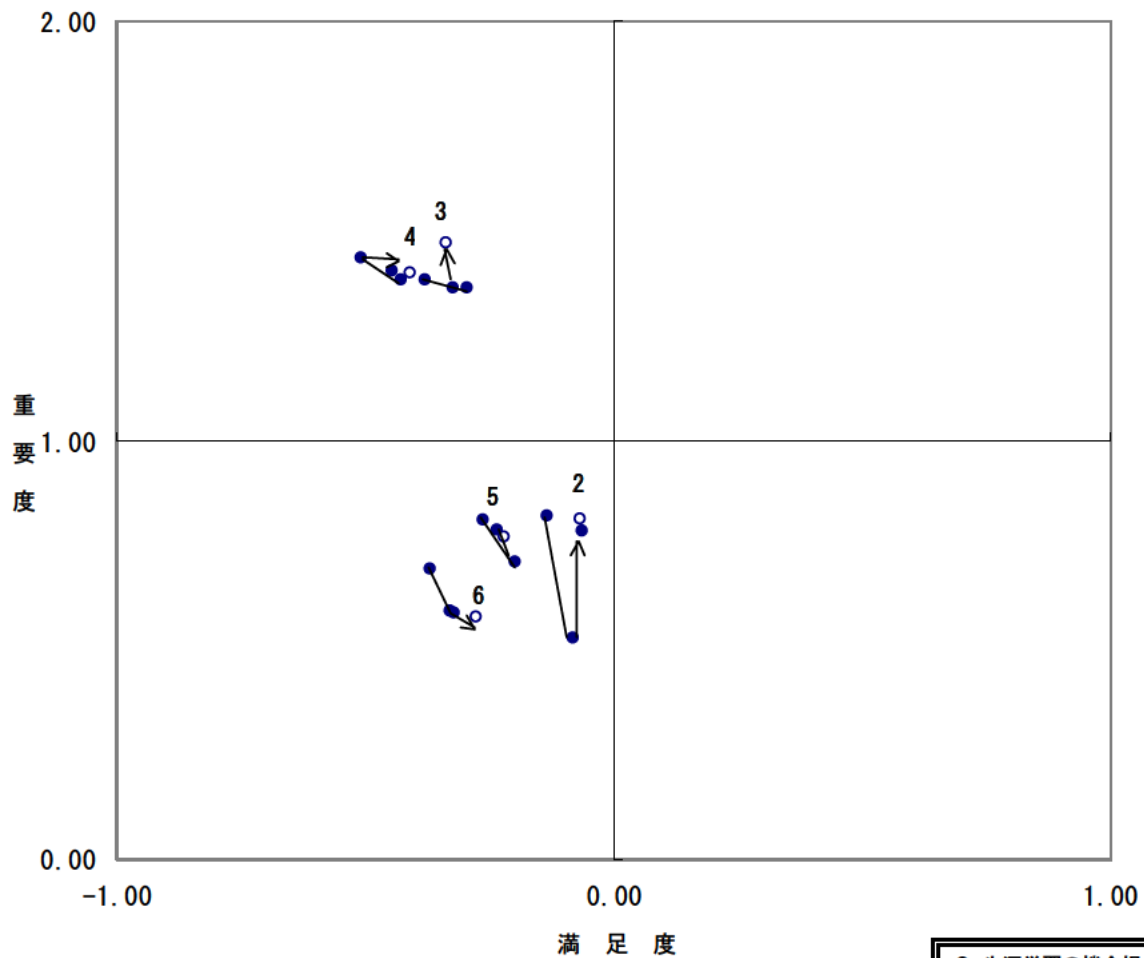
県行政の47項目の施策を18の分野にまとめ、各分野における施策の平成10年度、12年度、14年度、15年度の満足度、重要度平均ポイントの推移を図にプロットした。矢印は平成10年度からの移行を示しており、満足度が低下、重要度が上昇する方向への移動（グラフの左上方向）は、住民からのニーズが高まっていることを表している。ただし、図中の点は、アンケートの結果による平均得点をプロットしたものであるから、多少の誤差が生じることに注意する。また、図中の●は平成10、12、14年度における満足度、重要度の平均ポイントを、○は平成15年度における満足度、重要度の平均ポイントを図にプロットした点となっている。

○人権の尊重



「人権侵害・差別撤廃」は、平成10～14年度まではあまり変化がなかったが、15年度には満足度が下がり、重要度が上がっており、ニーズが高まっている。

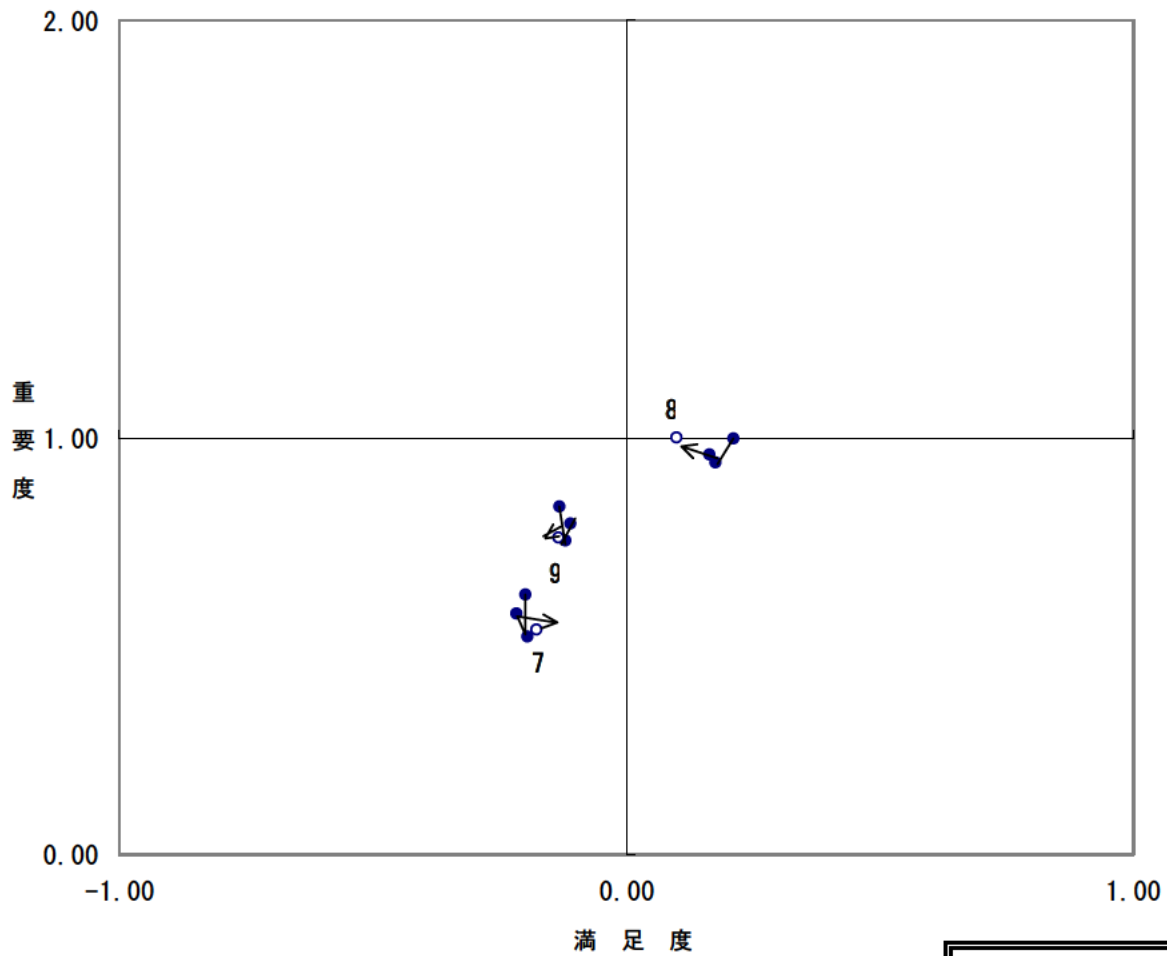
○人づくりの推進



- 2. 生涯学習の機会提供
- 3. 学校教育への取組
- 4. 青少年の健全育成
- 5. 高等教育機関の充実
- 6. 市民活動環境の整備

「生涯学習の機会提供」「高等教育機関の充実」は、平成 14 年度からほとんど変化がない。「学校教育への取組」は、平成 14 年度から 15 年度にかけて重要度が上がっている。「青少年の健全育成」は、満足度が平成 12 年度に一旦下がり、その後徐々に回復している。「市民活動環境の整備」は、満足度が年々上昇している。

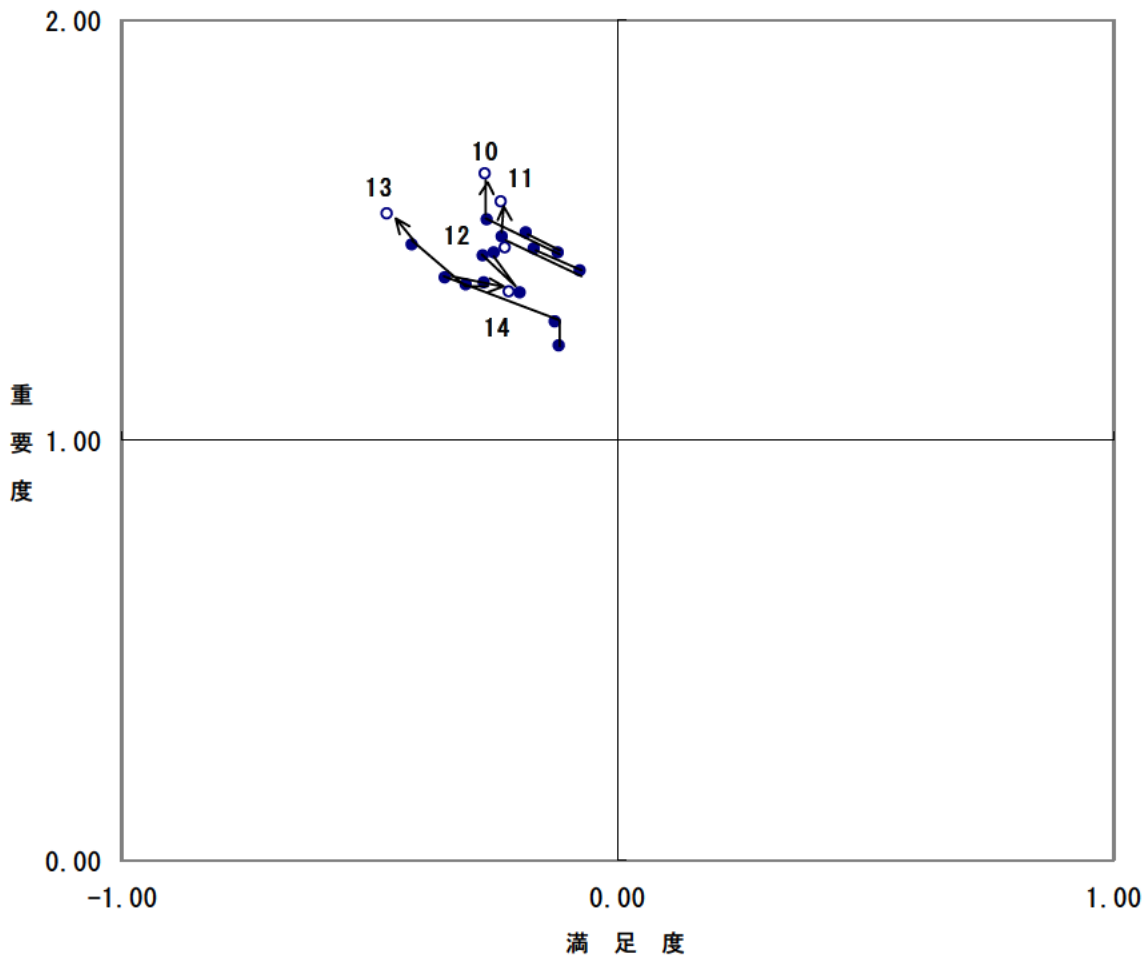
○文化・スポーツの振興



7. 芸術文化環境の提供
8. 文化遺産等の保存
9. スポーツ施設の整備

「文化遺産等の保存」は、平成 14 年度から 15 年度にかけて重要度が上昇している。「芸術文化環境の提供」「スポーツ施設の整備」は、満足度、重要度が上下を繰り返しているが、大きな変化はみられない。

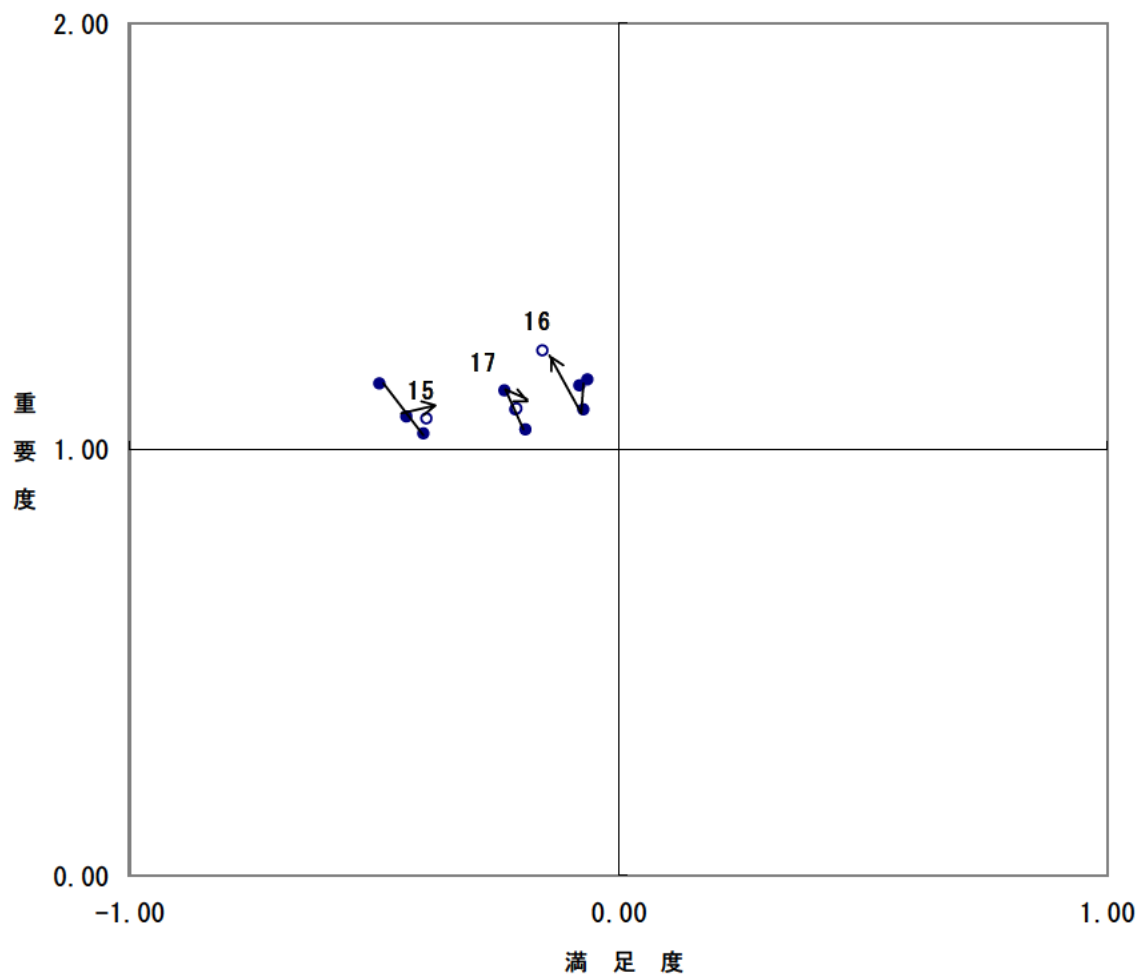
○安全な生活の確保



- 10. 防災対策への取組
- 11. 自然災害対策
- 12. 交通安全対策の推進
- 13. 防犯活動の強化
- 14. 食品の安全性確保

全体的に変動が激しくなっている。「防災対策への取組」「自然災害対策」は同じような動向を示しており、平成14年度から15年度にかけて満足度は変わらず重要度が上がっている。「交通安全対策の推進」は、重要度、満足度が上下を繰り返している。「防犯活動の強化」は曲線を描いており、平成10年度から徐々にニーズが高くなる方向へ移行している。「食品の安全性確保」は、平成14年度までニーズが高くなる方向へ移行していたが、平成15年度には満足度が上がっている。

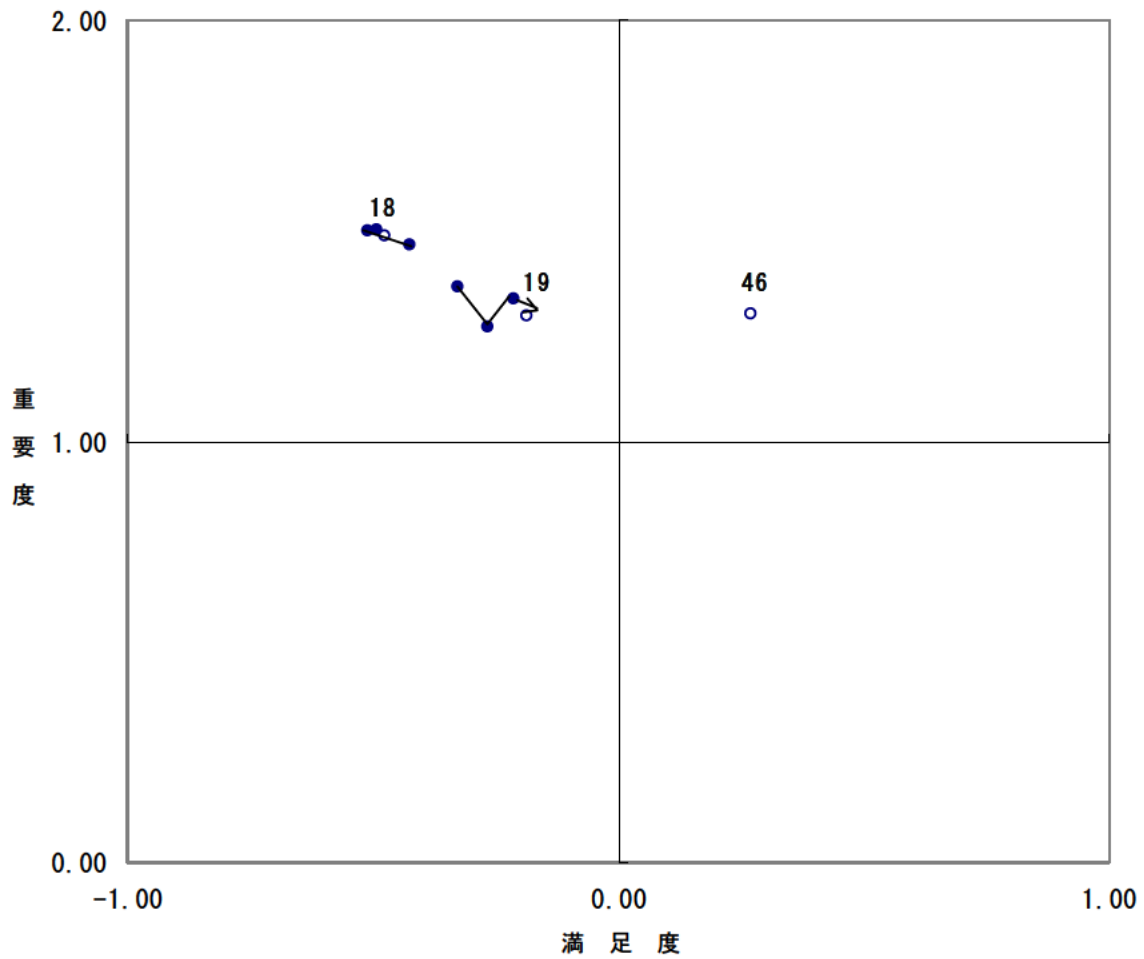
○健やかな生活の確保



15. 高齢者等の就労対策
16. 保健予防体制の確保
17. 子育て環境の整備

「高齢者等の就労対策」は、満足度、重要度が上下変動をしている。「保健予防体制の確保」は平成14年度から15年度にかけてニーズが高い方向に移行している。「子育て環境の整備」は平成14年度からほとんど変化はみられない。

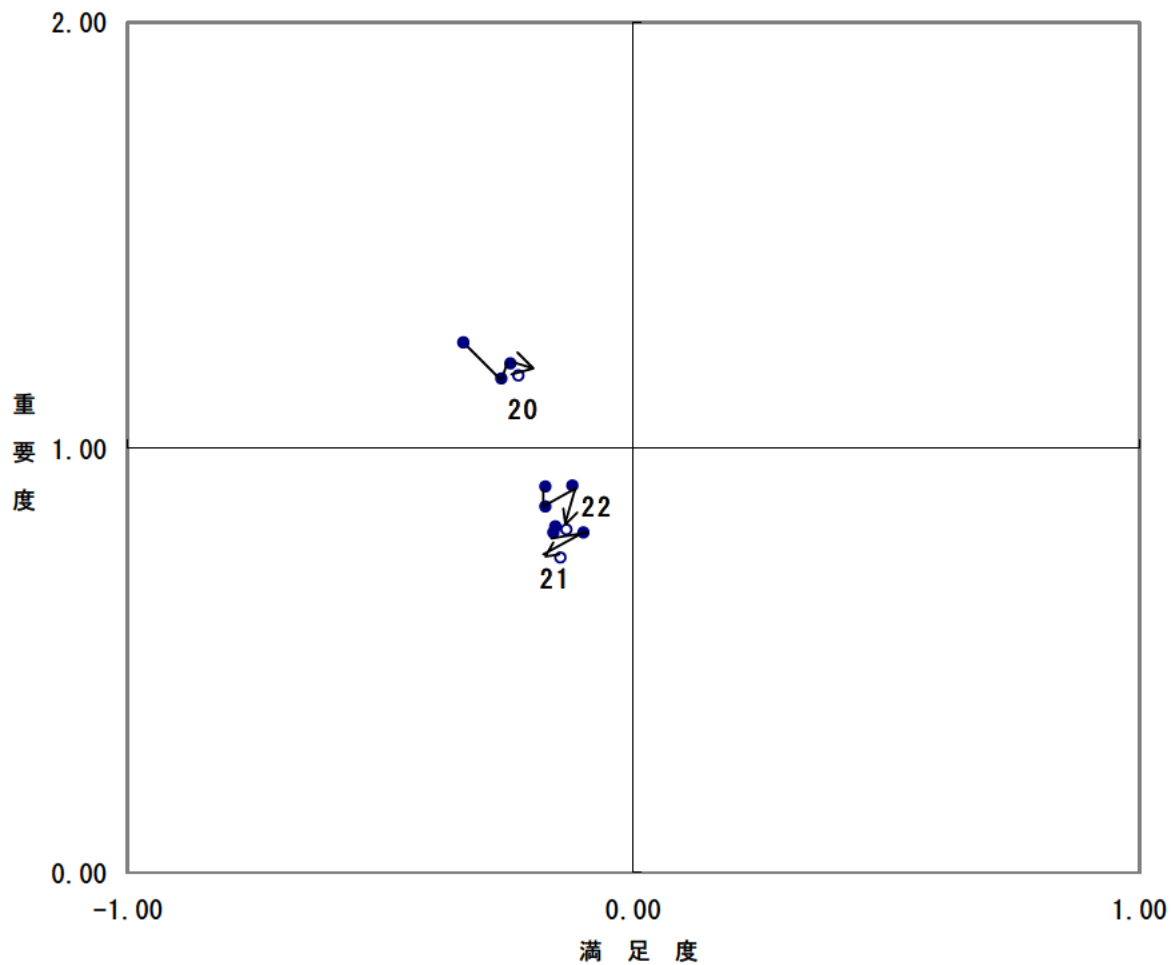
○安心できる生活の確保



- 18. 患者本位の医療体制
- 19. 保健・福祉サービス
- 46. 福祉に携わる人材の確保

「患者本位の医療体制」は、満足度、重要度が上下変動をしている。「保健・福祉サービス」は、満足度は徐々に上がっているが、重要度は毎回上下に変動している。

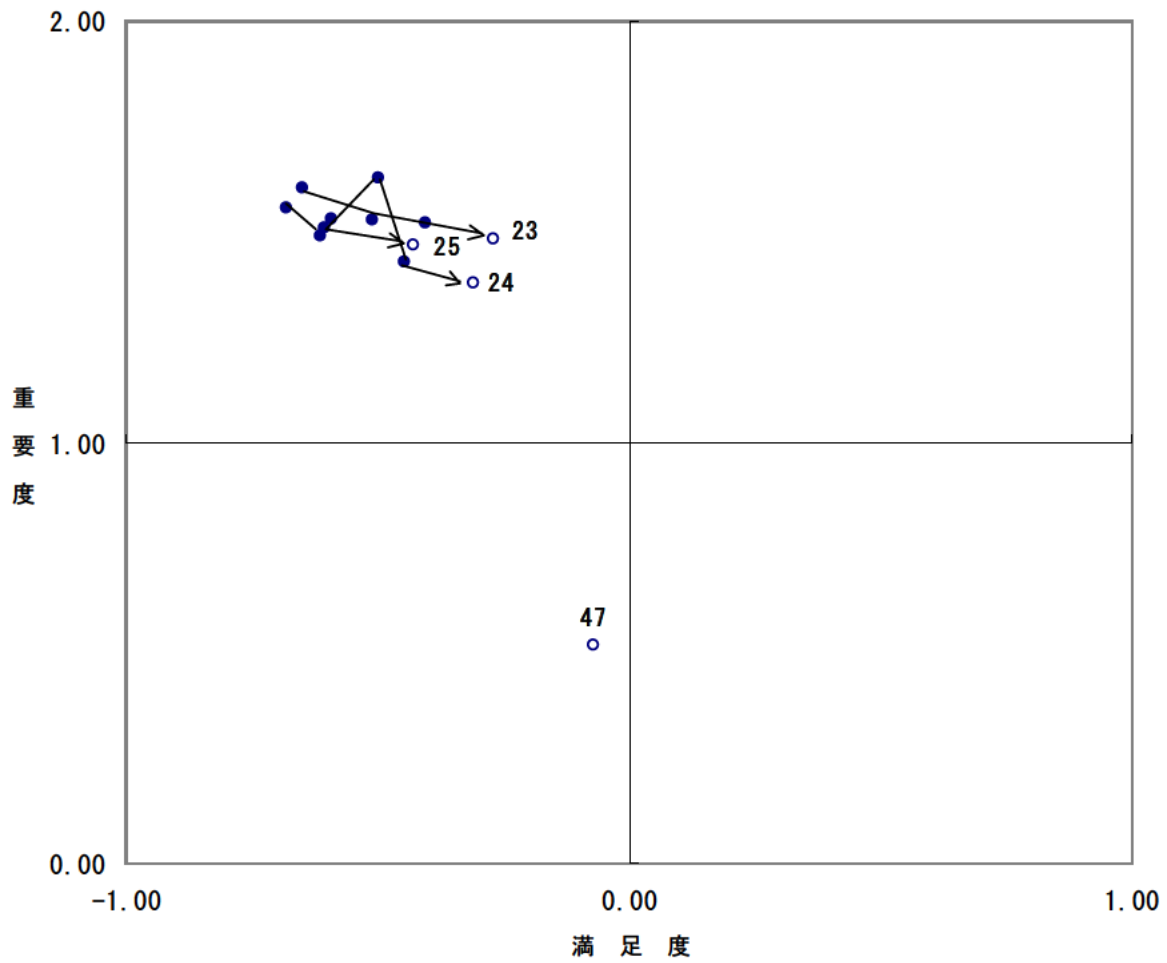
○自然との共生の確保



20. 自然環境の保全
21. 野生生物の保護
22. 自然に親しむ場の整備

「自然環境の保全」は、満足度は年々上昇しているが、重要度は上下変動している。「野生生物の保護」「自然に親しむ場の整備」は、同じような動向を示しており、平成14年度から15年度にかけて満足度、重要度はともに下がっている。

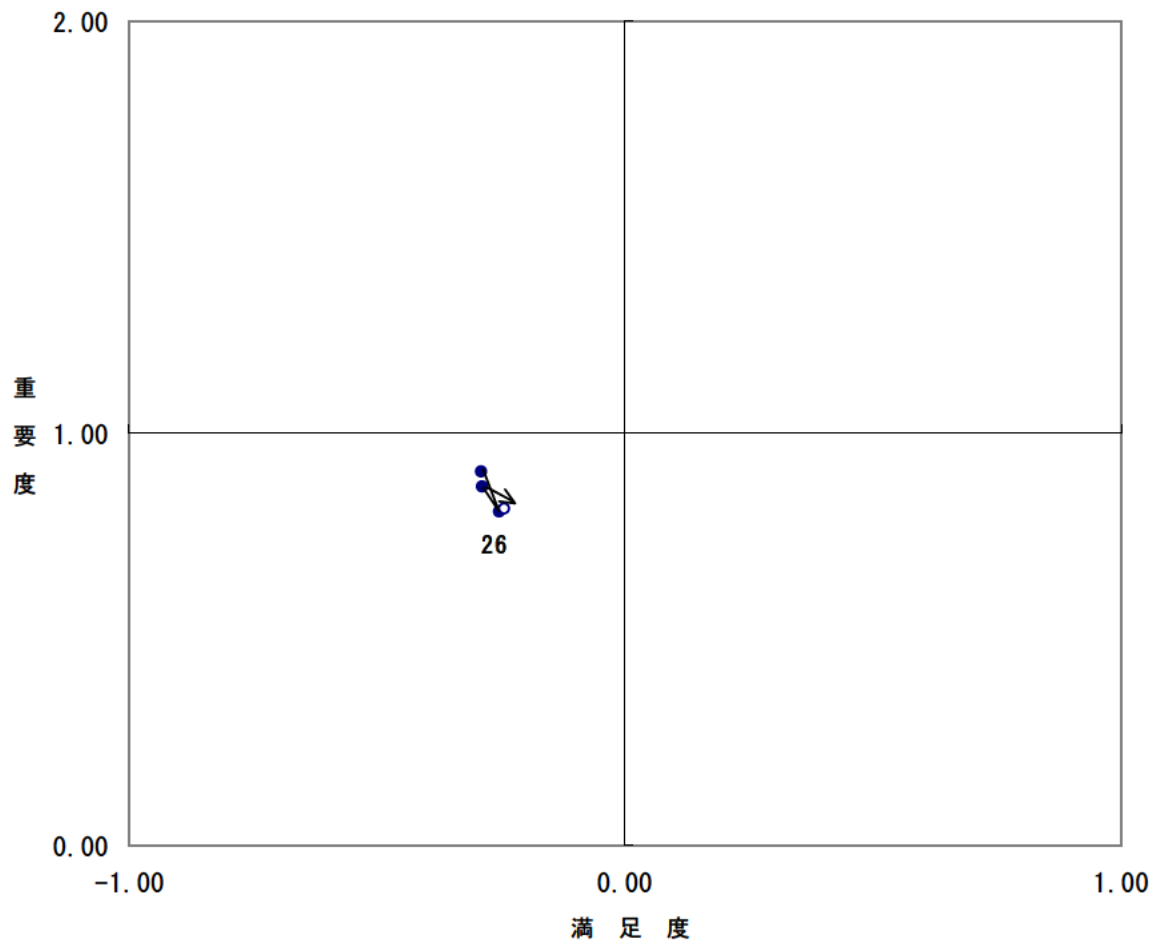
○資源循環型社会の構築



- 23. ごみの減量化
- 24. 大気汚染防止対策
- 25. 川や海の水質浄化
- 47. 国際的な環境保全への協力

「ごみの減量化」「大気汚染防止対策」「川や海の水質浄化」は同じような動向となっており、年々満足度が上昇するとともに、重要度は緩やかに下がる傾向にある。

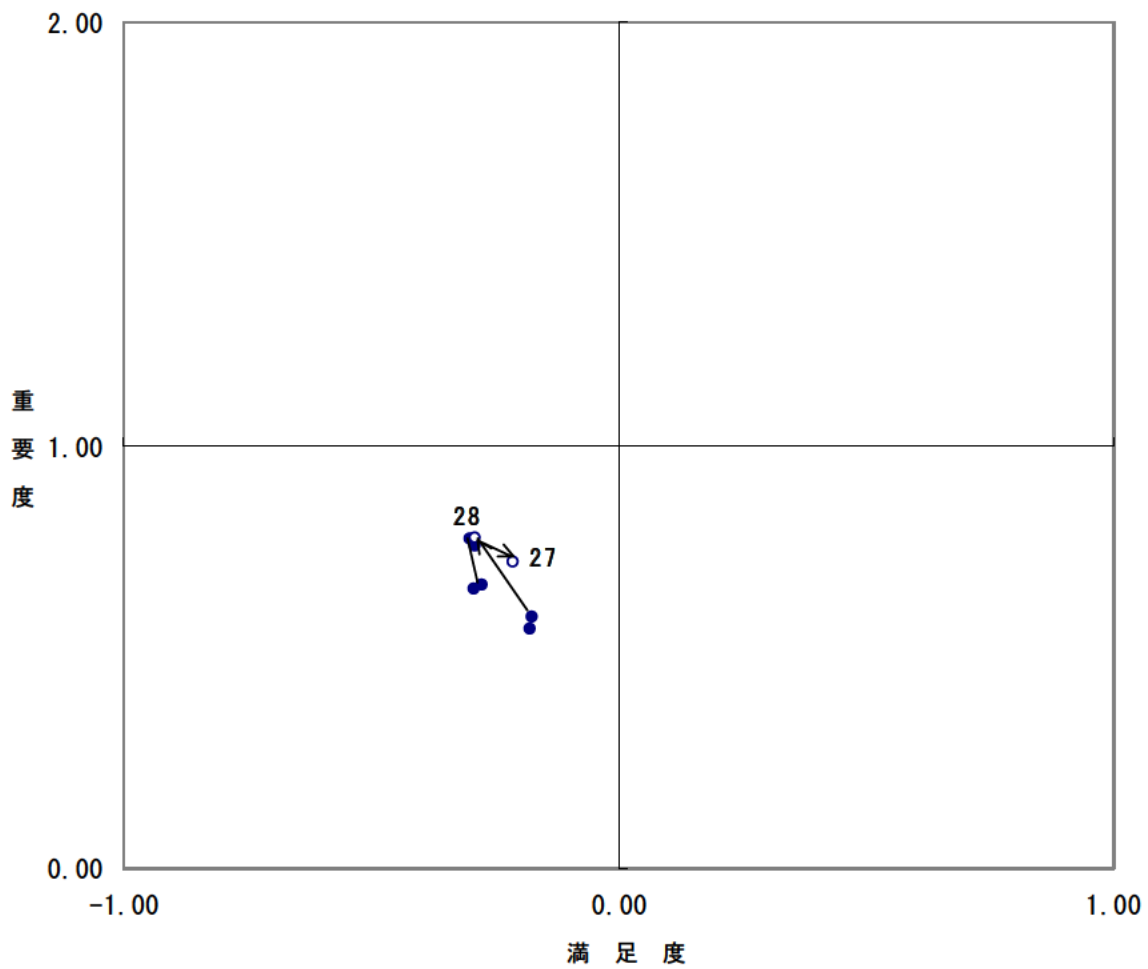
○安心を支える力強い農林水産業の振興



26. 農林水産業の活発化

「農林水産業の活発化」は、重要度、満足度が上下変動している。

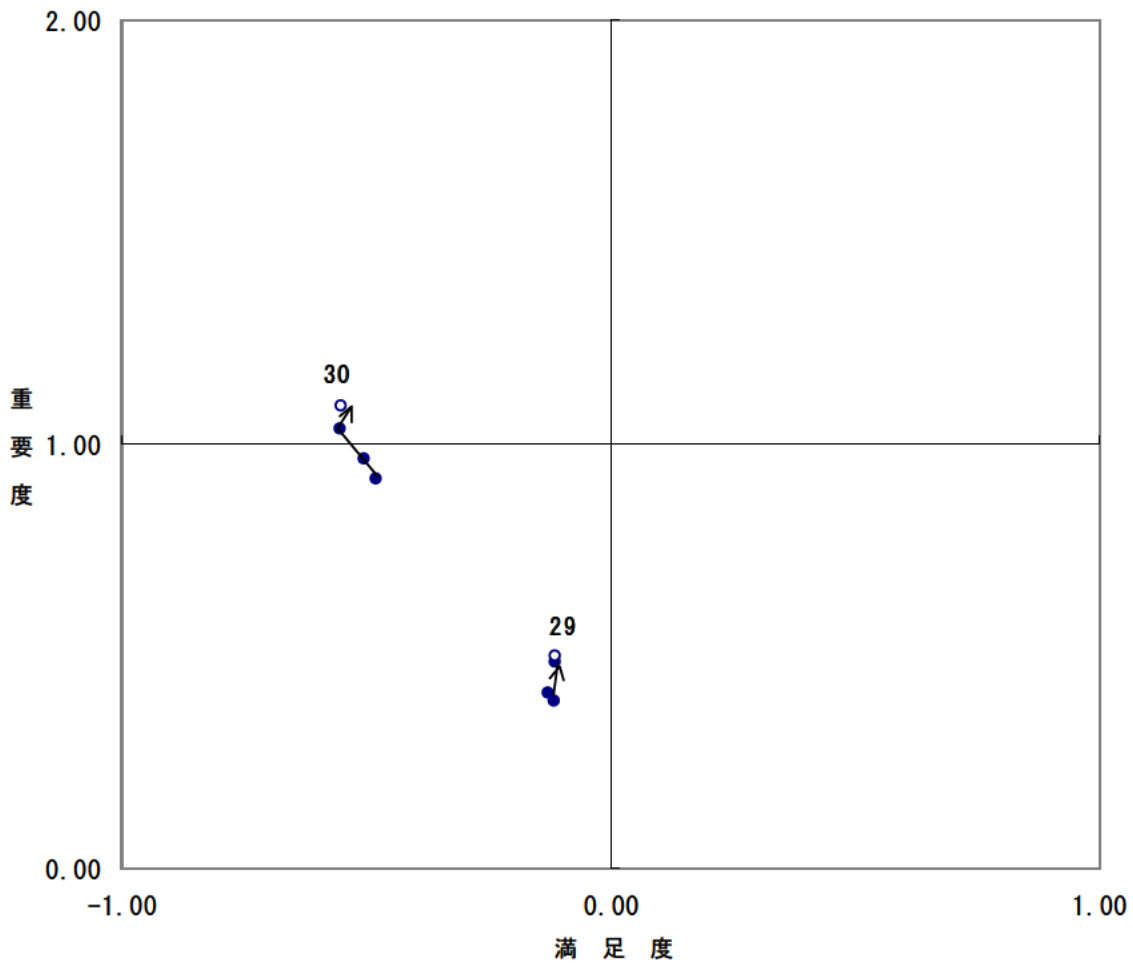
○戦略的な産業振興



27. 産業育成・企業誘致
28. 観光施設・地域づくり

「産業育成・企業誘致」は、平成12年度から14年度にかけて重要度が上がり、平成14年度から15年度にかけて満足度が上がるとともに重要度が下がっている。「観光施設・地域づくり」は平成12年度から14年度にかけて、急激にニーズが高まる方向へ移行しているものの、平成14年度から平成15年度にかけては変化はみられない。

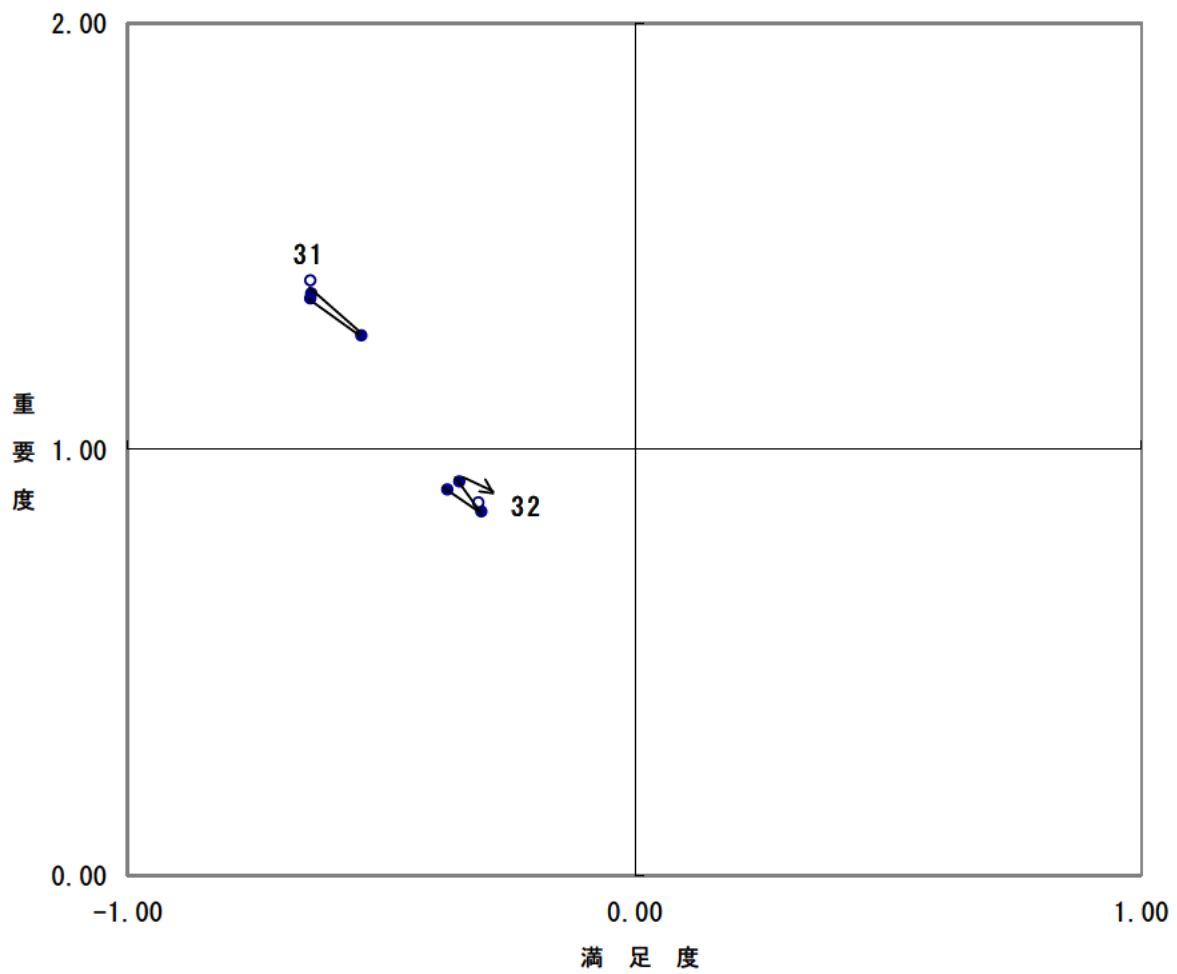
○技術の高度化と競争力の強化



29. 科学技術の振興
30. 地域商工業の活発化

「科学技術の振興」は、平成 14 年度から 15 年度にかけてほとんど変化がない。「地域商工業の活発化」は、平成 12 年度から 14 年度にかけてニーズが高まる方向へ移行したが、平成 14 年度から 15 年度にかけて満足度は変わらず重要度は若干上がっている。

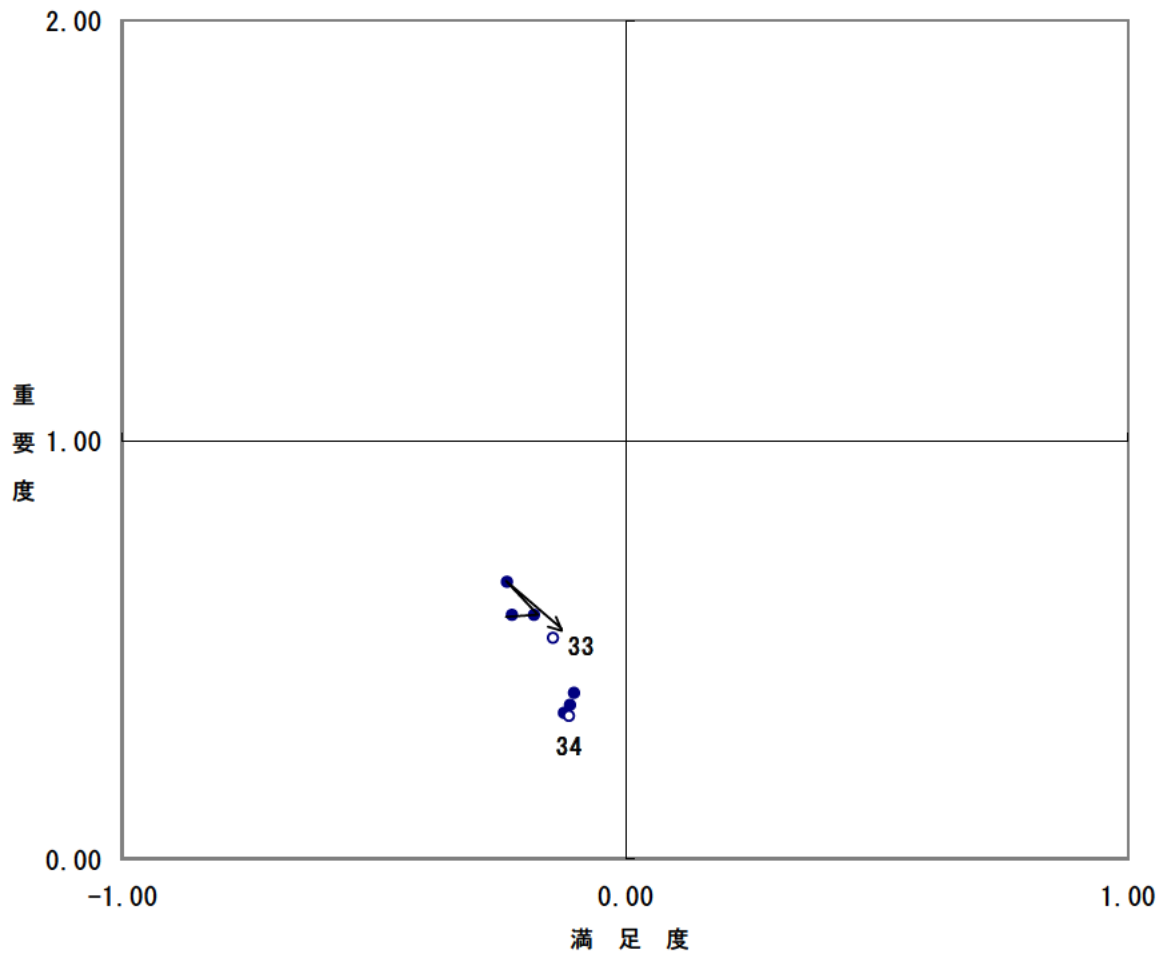
○充実した職業生活の推進



31. 雇用・勤労者福祉
32. 職業能力の開発訓練体制

「雇用・勤労者福祉」は、平成14年度から15年度にかけてほとんど変化はない。「職業能力の開発訓練体制」は、満足度、重要度が上下変動している。

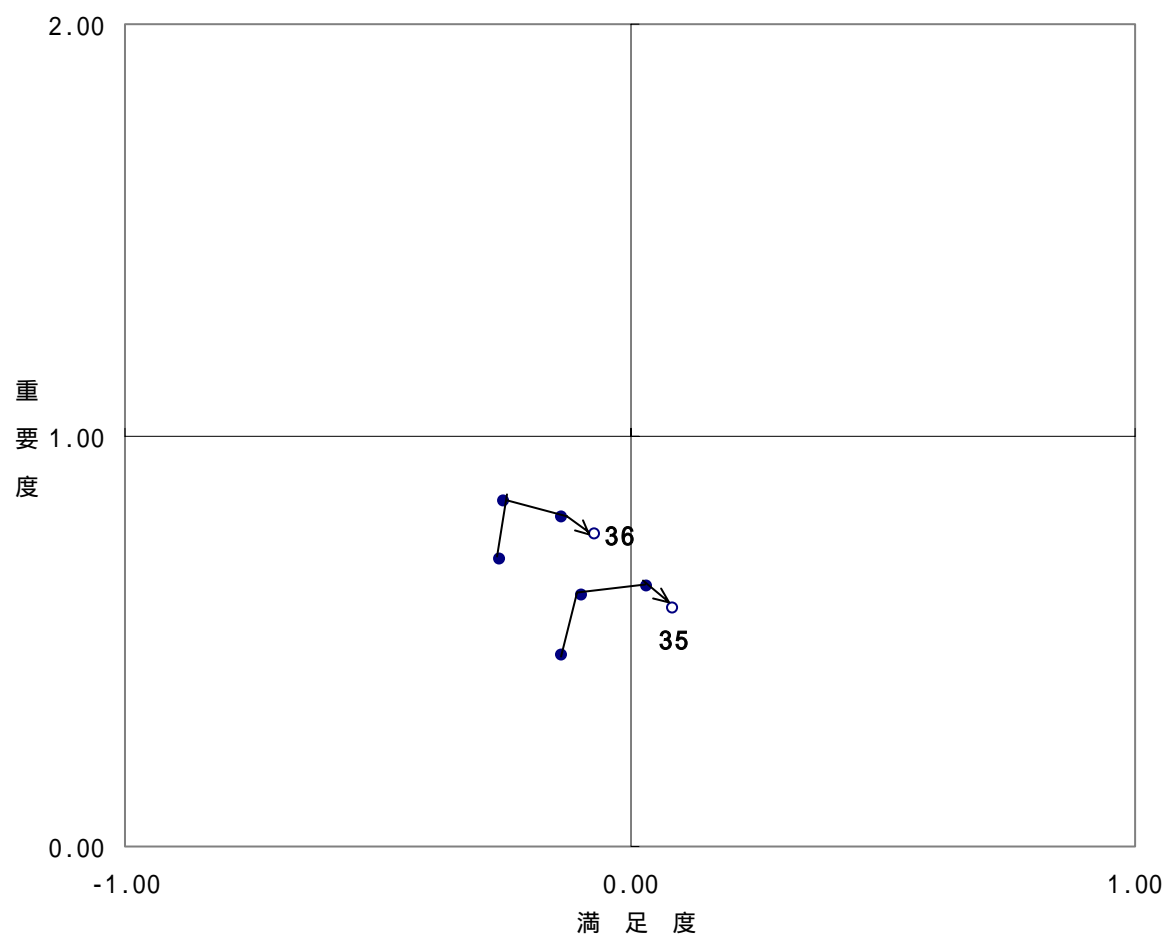
○交流の促進



33. 国際的人材の育成
34. 他府県との共同事業

「国際的人材の育成」は、平成12年度から14年度にかけてニーズが高まる方向へ移行したが、14年度から15年度にかけて満足度が上がるとともに重要度が下がっている。「他府県との共同事業」は、満足度、重要度ともに大きな変化はみられない。

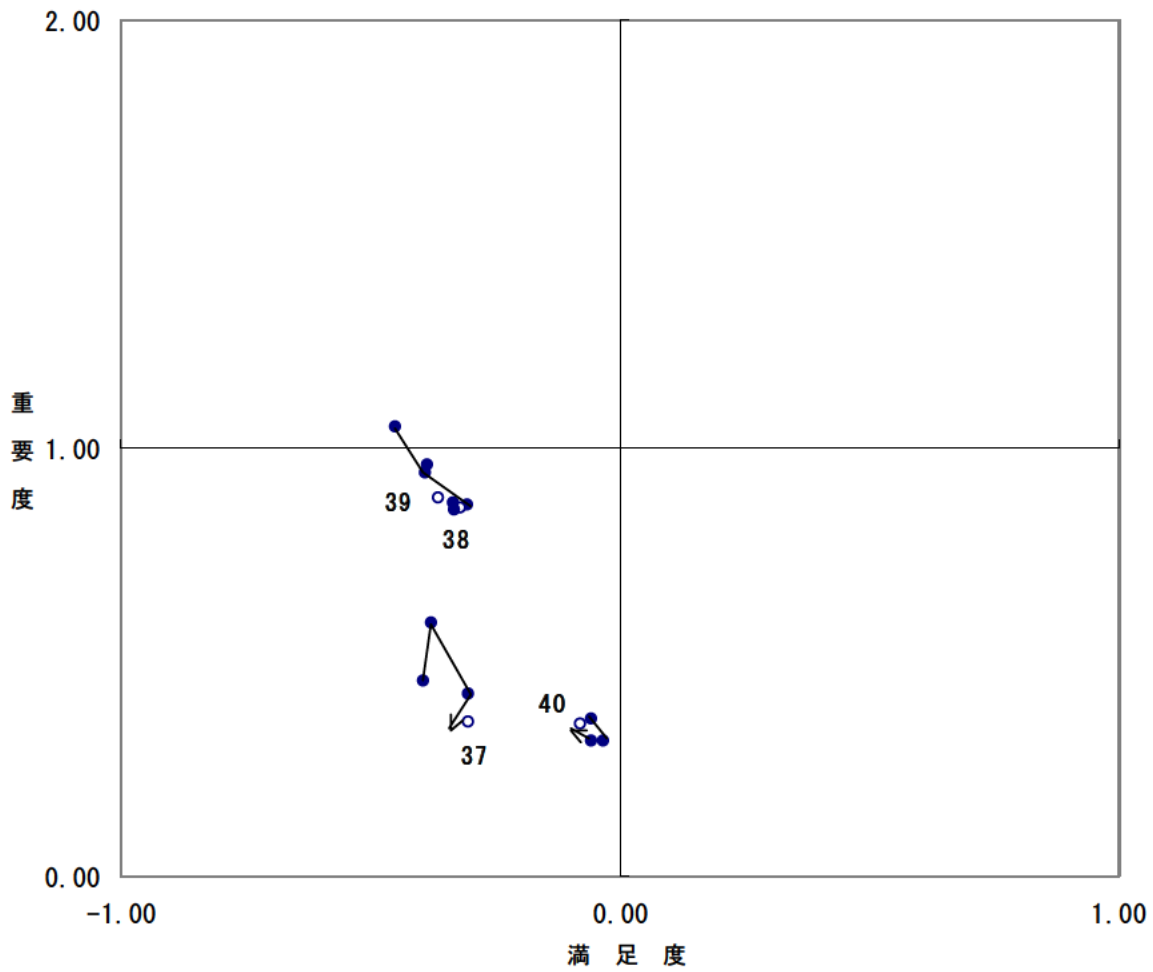
高度情報化の推進



35. 情報ネットワークの整備
36. 情報教育の推進

「情報ネットワークの整備」「情報教育の推進」ともに同じような動向を示している。年々満足度が上昇傾向にある。

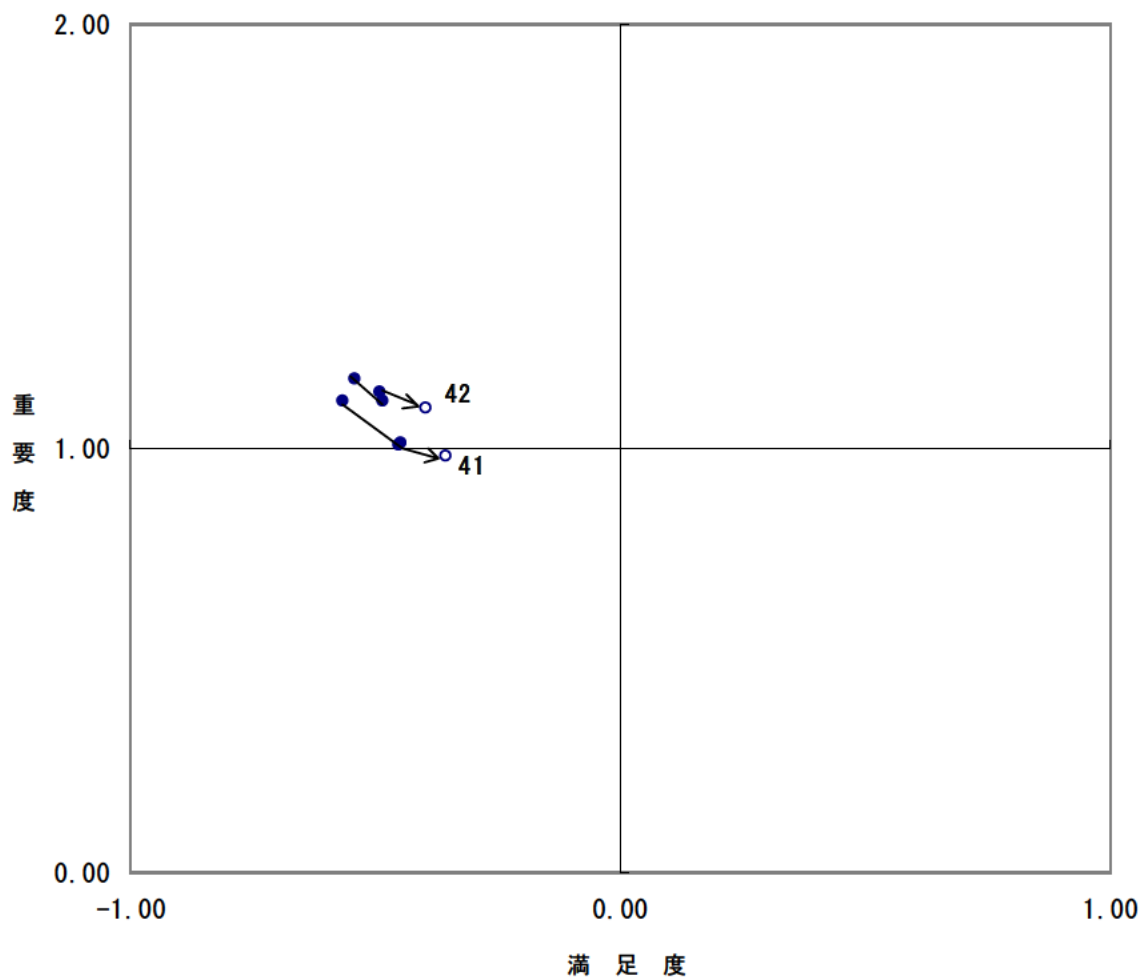
○交流基盤の整備



37. 30分交通圏の拡大
 38. 国道等の改良・整備
 39. 公共交通機関の整備
 40. 港湾の整備

「30分交通圏の拡大」は、平成14年度から15年度にかけて満足度は変わらず重要度が下がっている。「国道等の改良・整備」「公共交通機関の整備」は同じような動向を示しており、平成10年度から14年度にかけては満足度が上がるとともに重要度が下がっているが、平成14年度から15年度にかけて満足度は若干下がっている。

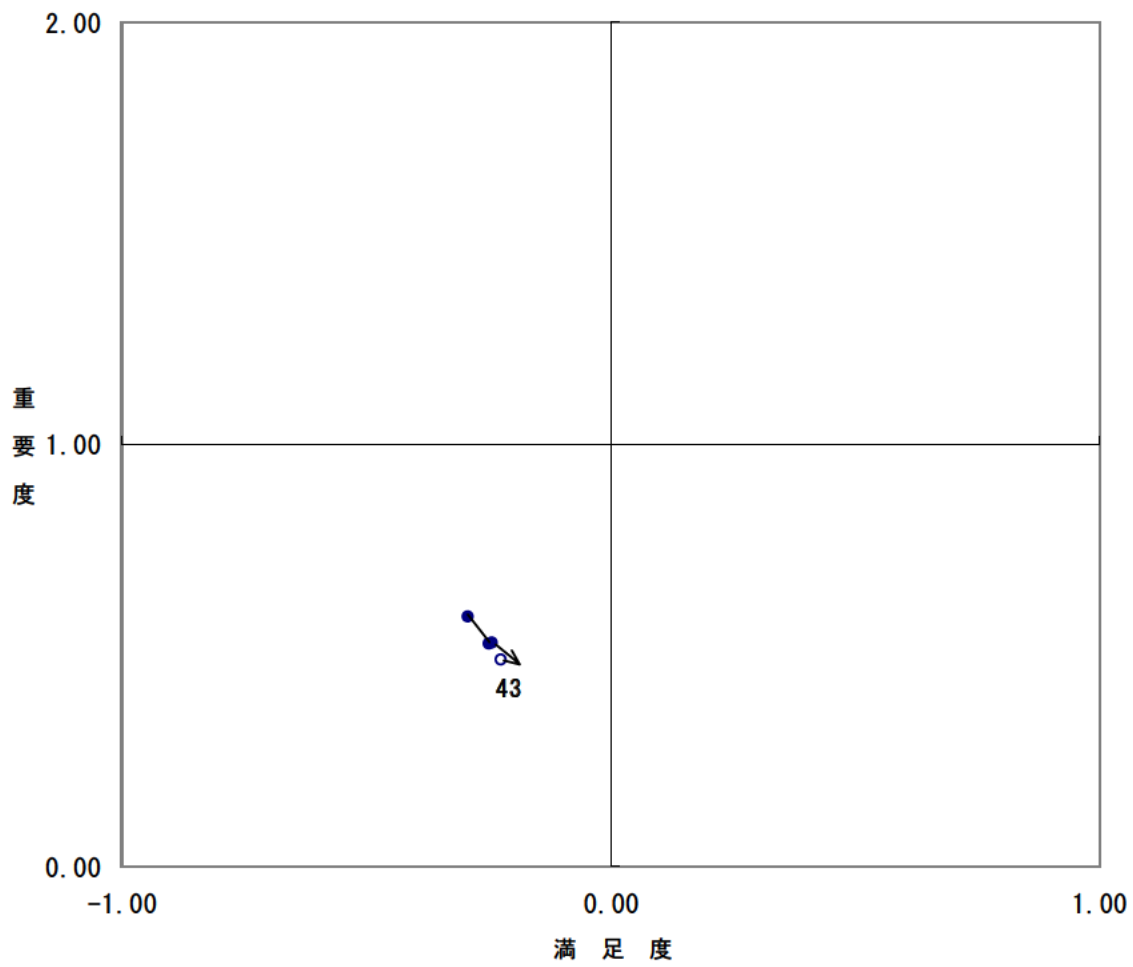
○まちづくりの推進



41. 快適なまちづくり
42. 農山漁村づくり

「快適なまちづくり」「農山漁村づくり」は同じような動向を示しており、年々満足度が上がるとともに重要度は緩やかに下がる傾向にある。

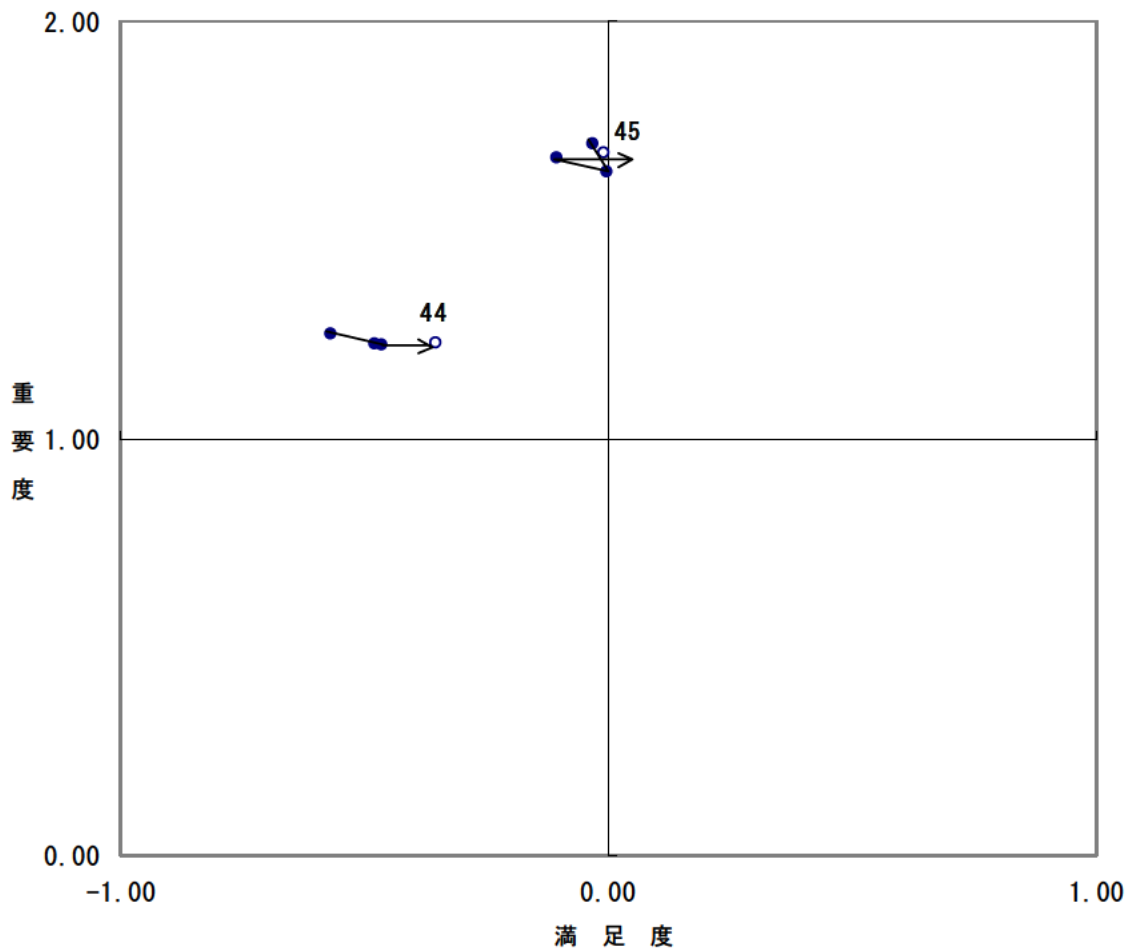
○過疎地域等の活性化



43. 過疎地域等の活性化

「過疎地域等の活性化」は、年々満足度が上がるとともに重要度が下がる傾向にある。

○計画的な県土利用と資源エネルギー対策の推進



44. エネルギー対策の推進
45. 安心な水の安定確保

「エネルギー対策の推進」は、重要度は変わらないが満足度は年々上昇している。「安心な水の安定確保」は、平成12年度から14年度にかけて満足度が下がったものの、平成14年度から15年度にかけて回復している。

5. 平成 15 年度における県行政の取組に対する認知度

平成 15 年度に新たに設定された各施策の「認知度」について分析を行う。認知意識を、「取組の内容を知っている」と「取組んでいることは知っている」と答えた人の割合をあわせたものとして、認知意識が高いものから順に並べたものが右表である。

第 1 位は「ごみの減量化」(68.6%)となっており、約 7 割の人が認知している。以下、「人権侵害・差別撤廃」(59.9%)、「防災対策への取組」(58.4%)、「交通安全対策の推進」(57.6%)、「保健・福祉サービス」(56.1%)と続いている。

一方、認知意識が最下位となっている施策は、「他府県との共同事業」(11.3%)であり、1 割程度となっている。次いで「科学技術の振興」(12.3%)、「国際的な環境保全への協力」(13.4%)、「過疎地域等の活性化」(15.6%)、「国際的な人材の育成」(16.7%)となっている。国際的な取組や、広域における事業への取組などについては、認知意識が低い傾向にあるといえる。また、これらの施策は前述の重要度下位 5 項目に含まれているものが多い。

項目	認知意識
23.ごみの減量化	68.6
01.人権侵害・差別撤廃	59.9
10.防災対策への取組	58.4
12.交通安全対策の推進	57.6
19.保健・福祉サービス	56.1
02.生涯学習の機会提供	50.1
03.学校教育への取組	49.7
35.情報ネットワークの整備	49.1
38.国道等の改良・整備	48.9
11.自然災害対策	47.8
08.文化遺産等の保存	45.3
09.スポーツ施設の整備	44.8
25.川や海の水質浄化	42.4
24.大気汚染防止対策	41.3
41.快適なまちづくり	41.2
46.福祉に携わる人材の確保	40.6
13.防犯活動の強化	40.5
04.青少年の健全育成	40.0
45.安心な水の安定確保	39.0
17.子育て環境の整備	37.9
15.高齢者等の就労対策	37.0
36.情報教育の推進	36.7
16.保健予防体制の確保	36.2
44.エネルギー対策の推進	35.2
20.自然環境の保全	34.5
28.観光施設・地域づくり	34.3
14.食品の安全性確保	33.3
07.芸術文化環境の提供	32.3
30.地域商工業の活発化	30.7
37.30分交通圏の拡大	30.0
39.公共交通機関の整備	29.6
22.自然に親しむ場の整備	29.2
31.雇用・勤労者福祉	28.2
18.患者本位の医療体制	27.3
27.産業育成・企業誘致	27.3
42.農山漁村づくり	27.1
06.市民活動環境の整備	24.7
05.高等教育機関の充実	24.1
26.農林水産業の活発化	21.9
32.職業能力の開発訓練体制	21.1
21.野生生物の保護	20.8
40.港湾の整備	19.9
33.国際的な人材の育成	16.7
43.過疎地域等の活性化	15.6
47.国際的な環境保全への協力	13.4
29.科学技術の振興	12.3
34.他府県との共同事業	11.3

6. 施策認知者の満足度

各施策について、「取組の内容を知っている」と回答した“認知者”は、どれくらいその施策に満足しているのかを分析した。

施策認知者の満足・不満足意識の傾向としては、大きく

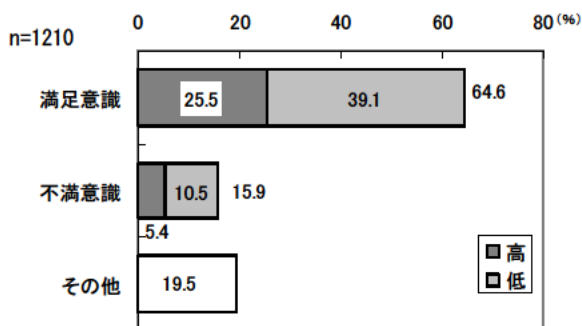
- (1) 満足意識が高い施策
- (2) 満足意識が高いが、「不満」も高い施策
- (3) 満足意識、不満足意識に差がない施策
- (4) 不満足意識が高い施策
- (5) 不満足意識が高く、中でも「不満」が高い施策

の5つに分類される。

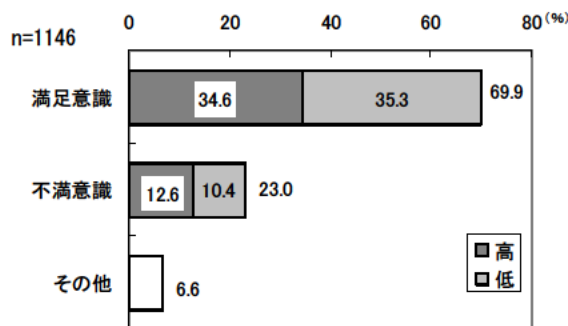
(1) 満足意識が高い施策

認知者の「満足意識が高い」施策数は最も多くなっている。特に「文化遺産等の保存」「安心な水の安定確保」については、認知者の満足意識が6割以上を占めており、施策を認知している人から高い評価を受けている。

「認知者」の満足・不満足意識



08. 文化遺産等の保存



45. 安心な水の安定確保

注1) その他:「どちらともいえない」+「わからない」+「無回答」

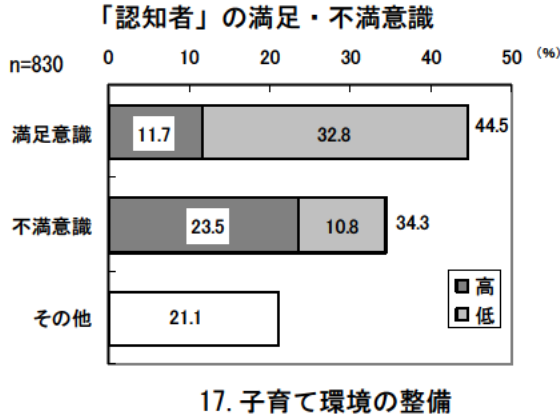
注2) 凡例「高」:「満足」あるいは「不満」 「低」:「どちらかといえば満足」あるいは「どちらかといえば不満」

その他の類似傾向施策

02. 生涯学習の機会提供	07. 芸術文化環境の提供	09. スポーツ施設の整備	10. 防災対策への取組
11. 自然災害対策	12. 交通安全対策の推進	14. 食品の安全性確保	16. 保健予防体制の確保
19. 保健・福祉サービス	22. 自然に親しむ場の整備	23. ごみの減量化	27. 産業育成・企業誘致
28. 観光施設・地域づくり	29. 科学技術の振興	33. 国際的人材の育成	35. 情報ネットワークの整備
36. 情報教育の推進	40. 港湾の整備	46. 福祉に携わる人材の確保	47. 国際的な環境保全への協力

(2) 満足意識が高いが、「不満」も高い施策

満足意識の方が高くなったものの、「不満」を持つ人の割合が2割以上を占めている施策があり、満足意識だけで判断するのは危険な施策だといえる。「子育て環境の整備」などがある。

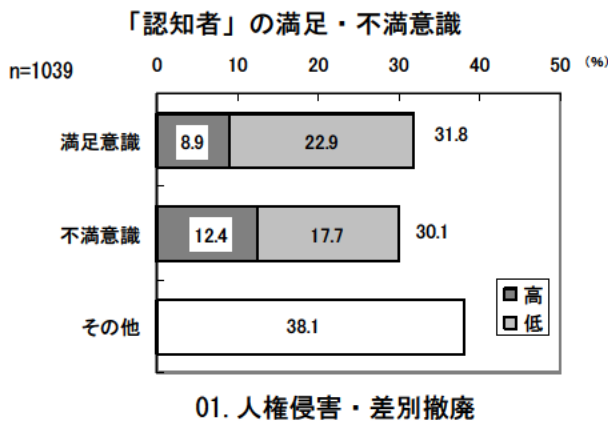


その他の類似傾向施策
05. 高等教育機関の充実
15. 高齢者等の就労対策
18. 患者本位の医療体制
20. 自然環境の保全
34. 他府県との共同事業
37. 30分交通圏の拡大
38. 国道等の改良・整備
39. 公共交通機関の整備
41. 快適なまちづくり
42. 農山漁村づくり

注1) その他:「どちらともいえない」+「わからない」+「無回答」
 注2) 凡例「高」:「満足」あるいは「不満」
 「低」:「どちらかといえば満足」あるいは「どちらかといえば不満」

(3) 満足意識、不満足意識に差がない施策

施策認知者の満足意識と不満足意識にあまり相違がなく、さらに満足度の度合にもほとんど相違がみられない施策として、「人権侵害・差別撤廃」などがある。

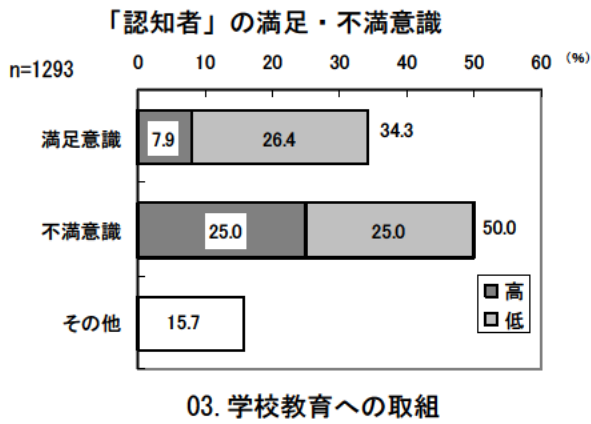


その他の類似傾向施策
24. 大気汚染防止対策
32. 職業能力の開発訓練体制

注1) その他:「どちらともいえない」+「わからない」+「無回答」
 注2) 凡例「高」:「満足」あるいは「不満」
 「低」:「どちらかといえば満足」あるいは「どちらかといえば不満」

(4) 不満足意識が高い施策

認知者の不満足意識が高い結果となった施策も挙げられている。「学校教育への取組」などがある。

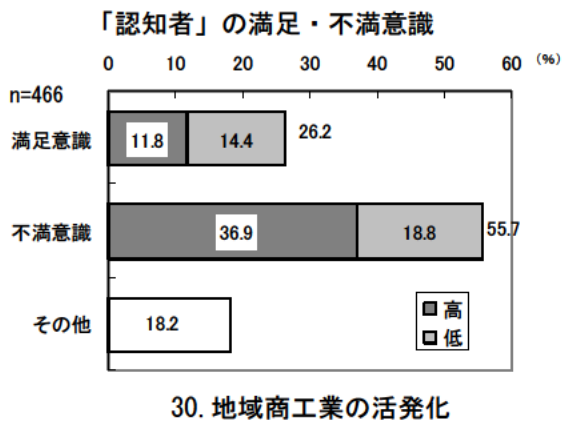


その他の類似傾向施策
04. 青少年の健全育成
06. 市民活動環境の整備
13. 防犯活動の強化
21. 野生生物の保護
25. 川や海の水質浄化
26. 農林水産業の活発化
44. エネルギー対策の推進

- 注1) その他:「どちらともいえない」+「わからない」+「無回答」
 注2) 凡例「高」:「満足」あるいは「不満」
 「低」:「どちらかといえば満足」あるいは「どちらかといえば不満」

(5) 不満足意識が高く、中でも「不満」が高い施策

認知者の不満足意識が高く、中でも「不満」を持つ人の割合が3割以上を占める施策となっている。「地域商工業の活性化」などがある。



その他の類似傾向施策
31. 雇用・勤労者福祉
43. 過疎地域等の活性化

- 注1) その他:「どちらともいえない」+「わからない」+「無回答」
 注2) 凡例「高」:「満足」あるいは「不満」
 「低」:「どちらかといえば満足」あるいは「どちらかといえば不満」